

明治三十四年

(二月)

一月一日 己卯 火曜 晴。五十五度。

朝五時起。神前祭祀を行ひ、四方拝済て、七時一同食堂にて雑煮を祝ふ。当年ハ生徒越年のもの例より多人数にて一入賑はしく、椒酒も済て、天皇陛下、皇后陛下万歳、跡見学校万歳を唱へ、庭にて君か代を唱ふ。生徒引連、氷川神社詣して帰る。空も晴わたりて長閑けさ春三月の如し。続々賀客来る。

一月二日 庚辰 水曜 晴。五十五度。

今朝も昨日の如く、食堂にて雑煮を祝ふ。余等、早々年礼ニ廻る。田邨氏より戸田氏、岩倉氏、志賀氏、小松宮様、三条家、九条家、閑院宮様より北白川宮様ニ参り、各家にて祝酒をいたゞき、北様にて夕飯戴て帰る。市中も中々の賑ひなり。  
受方摘要 三条家、五円。九条家、千疋。

一月三日 辛巳 木曜 晴。五十五度。

桃子、哥を供に連て、新橋七時廿分汽車にて沖津姉小路を見舞ふ。来客、橋本太吉、正木信子及その母。

\*沖津(興津)

一月四日 壬午 金曜 陰、夜雨。

余、風邪にて臥。賀客も来られ候に不逢。

一月五日 癸未 土曜 雨、終日をやみなる雨降。

来客、珍らしき藤岡君、小児肇、玉子、佐藤利尾子。桃子、夜八時沖津より帰着す。姉小路様病勢つよきよし、心痛也。

\*をやみなる(小止みなく) \*沖津(興津)

一月六日 甲申 日曜 入寒。陰。

余、栄子を連て観世会ニ行。晡時、石山すま子と同道して帰。  
払方摘要 観世会え七円廿銭。

一月七日 乙酉 月曜 雨。

人日。七草の御祝ひも済て、明日の準備する。この雨にもいとほして塾生続々帰塾する。

受方摘要 田中静、三円。内藤椒、一円。金丸安、五円。田中光、作、五円。  
\*いとほて(厭はで) \*内藤椒(内藤淑)

一月八日 丙戌 火曜 陰、朝より曇りたる空ながら、先々雨ハなく、二時頃空はれたり。  
始業式、午下一時之案内にて、当年ハ教員たちも招待す。一時半より六号教室にて生徒一  
同着席、はしめ、君か代を唱ふ。始業、唱歌。校長、としの始の辞を朗読す。畢而校哥を  
唱ふ。伴氏演舌あり。畢而福引をはしむ。四時畢。会する者百八十人也。賑々しく式も相  
済、点灯頃迄に皆々帰る。

受方摘要 江副兩人、五円。斎藤常、千疋。渡辺安、五円。三条家、一円五十錢。三条治  
子、二円。宮崎貞、一円。

一月九日 丁亥 水曜 晴。

業はしめ執行す。入門、田中真砂。入塾、大塚絹、津しま清。来客、松前藤子。重威、明  
朝より沖津ニ旅行す。

受方摘要 松前藤子、十五円。

払方摘要 泰え袴地買、十円。

\*津しま清(津島清) \*沖津(興津)

一月十日 戊子 木曜 晴。

渡辺氏、今日より歴史地理を依頼す。来客、阿久津愛子。

受方摘要 斎藤梅子、五円。

一月十一日 己丑 金曜 晴。

大和田氏来、稽古始をなす。来客、岡崎氏。

一月十二日 庚寅 土曜 晴。

半日授業畢。来客、湯浅竹子、小児。午下四時より佐野隠居を問ひて、五軒町新年会ニ行。  
愛治郎、桃子も来る。七時頃帰。来客、島田信子。

一月十三日 辛卯 日曜 晴。

朝九時出門、余、桃子、紅葉館能楽堂に能見物する。日暮、望月、野守の二番を残して帰。  
払方摘要 能散敷代一間ニテ、三円五十錢。弁当二、六十錢。

\*散敷(棧敷)

一月十四日 壬辰 月曜 陰。四十度。

来客、万里小路直房、智子、片平たか。京都大聖寺さまえ柳箇利小包ニテ出す。

朝七時地震。退校、茂木秋子。

受方摘要 上杉氏、二円。

\*柳箇利(柳行李)

一月十五日 癸巳 火曜 晴。五十五度。

来客、大和田氏、田島春、池田愛。帰塾、檜垣照子。

一月十六日 甲午 水曜 晴。五十五度。

小包郵便にて差出し物。吉田滝子、海苔十帖。錦織隆子、同。青木久衛、海苔廿帖。木田氏、海苔十帖、半襟。唯専寺え書輸入一箱、带上ケ、**帯しめ**。遠藤氏え海苔十帖、半襟、煙草入。久米民十郎え**ヒスケ**一箱。

田村氏より繡珍帯地。

受方摘要 左右田氏より五円。吉川常、一円。田村氏、千疋。

\*帯しめ(帯締) \*ヒスケ(ビスケ)

一月十七日 乙未 木曜 雨。雨後**みそれ**より雪になる。先々初雪。四十度。

退校、鈴木梅子。

\*みそれ(曇)

(二月十八日、十九日、記載ナシ)

一月二十日 戊戌 日曜 晴。三条様新年会、紅葉館午下四時。

午下四時より紅葉館ニ出向る。三条様御夫婦、御後室、閑院宮両殿下、土方伯、清岡夫婦、尾崎夫婦、河鱒氏、余、桃枝、幹等也。種々余興も有、謡、舞、各**つかふ**まつる。九時帰。

\*つかふ(仕ふ)

一月二十一日 己亥 月曜 雨。

入門、佐伯艶、森岡澄。

一月二十二日 庚子 火曜 晴。

千久子正当ニ付、午下墓参する。

受方摘要 吉田滝子、錦織隆子、金三円廿五銭。

一月二十三日 辛丑 水曜 晴。

来客、小松氏妻。

一月二十四日 壬寅 木曜 陰。

午下、岩倉家に稽古始をなす。それより河田町小笠原邸に行、家令に逢て帰。吉村孝左衛門来、跡見三治郎。英国女王、廿二日崩御。古田甚内氏ノ周旋にて、その女目見する。

\*吉村孝左衛門（芳村孝左衛門）

一月二十五日 癸卯 金曜 晴。

訃音、理学博士伊藤圭介廿四日長逝す。葬送ハ廿六日午後一時。至書、高山町川上愧子旧冬暮に出産す。書を寄す、三条治子様え。来客、佐野隠居、斎藤松の。

一月二十六日 甲辰 土曜 陰、あられ、又あめ。日中三十五度、寒気甚し。

樽会歌結ひを執行す。書を寄す、錦織典侍、吉田内侍。愛治郎、伊藤圭介男葬送ニ会す。

一月二十七日 乙巳 日曜 晴。四十五度。

斎藤松野、近々結婚ニ付、松魚一箱、織物丸帯箱入を祝ふ。午下一時より、余、桃子と同道にて、日本婦教育会ニ会す。華族女学校幼稚園ニテ執行。岡山孤児院院長演舌。近衛公（空白）。壺内氏、人類学。畢而福引。四時帰。

一月二十八日 丙午 月曜 晴。

午下一時より貴婦人会ニ会す。始、新門主法話、次、吉谷、外老人。奥村陽子、支那戦争実況を談す。

払方摘要 貴婦人会え、一円。

一月二十九日 丁未 火曜 陰。三十八度。

来客、山本久子。一昨廿六日東三条公恭殿御逝去ニ付、今日葬送、愛治郎御悔ニ出ル。右ニ付、御神金千疋を備ル。来客、桐島みつ子、石山須摩子一宿。退塾、今井恵賀。朝六時、大学第二病院ニテ失火ニ付、大惨状を出したり。

\*備ル（供ル）

一月三十日 戊申 水曜 晴。

来客、玉枝、平尾光子。石山すま子、午下去。

一月三十一日 己酉 木曜 晴。

肥前唐津人奥村五百子来りて、生徒え支那、朝鮮之実況を談す。退塾、長瀬清。払方摘要 雑費金、廿八円九十四銭五り。

\*五り（五厘）

(二月会計、記載ナシ)

(二月)

二月一日 庚戌 金曜 午下晴。

朝起。昨夜の雨あがり、また降り足らぬ空ながら、墓参して帰。入門、神保絹子。

二月二日 辛亥 土曜 晴、朝より大風、寒し。

松平豊子に画の手本を出す。

二月三日 壬子 日曜 晴。廿五(度)。

余、愛治郎と同じく観世会へ行、四時過帰宅す。

弘方摘要 鈴木忠孝え恵む、廿円。

二月四日 癸丑 月曜 晴。廿八(度)。

京都木田氏より扇子三本着。訃音、天下茶屋寺田理恵三日死去。同、松平★(金十米十夕十年) 子母死去。

二月五日 甲寅 火曜 晴。廿八(度)。

午後より宮城姉小路良殿え参る。久々にて御祝酒、御料理等いたゞく。志賀重昂氏、演談ある。来客、横浜来栖貞子。諏訪良子、縁談定りたる二付、暇乞ニ来る。

二月六日 乙卯 水曜 晴、夜大雨降る。三十五(度)。

原善三郎三周忌二付、愛治郎参詣する。来客、長谷川幸子帰塾、母同道、瀬川久賀子、下婢梅腫物全快して帰。

二月七日 丙辰 木曜 雪、夜ニ入て大風。朝より雪になり、たちまちに積る事一寸、珍

らしといふも珍らし。春の雪とて解ヶ安し。四十度。

母の忌日にて、祭祀を行ふ。下婢さと、父の病氣にて帰郷す。訃音、長沢茂女去月十二日死去のよし、姉栄子より申来る。弔詞、天下茶屋寺田氏え、香料三円。書を寄す、京都木田氏、今村栄。

二月八日 丁巳 金曜 晴、風すさまじ。四十(度)。

来客、古屋朝子、裏松千代子良子、此度親正町男爵え縁段治定、本月十六日興入之式挙ら(れ)候よしにて、暇乞に来る、女学世界記者二人来ル。

受方摘要 武田錦子、五円。

\*親正町(正親町) \*縁段(縁談)

二月九日 戊午 土曜 晴。

午下一時より浅草婦人会二行、四時過帰。来客、夜、鈴木忠孝。

二月十日 己未 日曜 晴。

早起。散歩して帰。揮毫する。訃音、京都前田清兵衛義七日午前十時死去。

\*義(儀)

二月十一日 庚申 月曜 朝雨ふり出して、午後陰晴不定。

紀元節。終日揮毫ものず。

二月十二日 辛酉 火曜 陰。

来客、松平頼子、石沢糸子此度川崎氏え縁談齊ひ、十八日結婚式挙げられ候二付、御暇乞に来る。母も同道。

二月十三日 壬戌 水曜 晴。

今井桓郎氏、道徳之演説。京都前田清兵衛死去二付、香料千疋、近万より送附を頼む。

\*今井桓郎氏(今井恒郎氏)

二月十四日 癸亥 木曜 晴。

課業畢而、午下岩倉氏ニ教授して帰。帰途、山中氏を問ふ。勝子、正子殿、寒冒にて打臥居られ、不逢而帰。来客、宮原六之輔。

\*寒冒(感冒)

二月十五日 甲子 金曜 晴。

朝、墓参して帰。課業如例。来客、山口梅子。

二月十六日 乙丑 土曜 晴。

午下より余觀世素謡会二行。夫ハ清廉弱法師の為なり。

二月十七日 丙寅 日曜 晴。

朝八時より余梅若能二行。田村氏招かれたり。終日樂しむて、四時帰。

二月十八日 丁卯 月曜 晴。 故正一位大勲位公爵三条実美十年祭、午後二時より五時

迄之内参詣之事、御暮前祭午前九時。

午下、三条家ニ詣し参拝す。立食之饗応あり。暫時旧を話して去る。江副氏を訪ふ。大に喜ひて、先々ゆる／＼してくれとて、種々談話之内、夕飯を饗され、八時過帰。来客、奥村五百子。

\*御暮前祭(御墓前祭)

二月十九日 戊辰 火曜 晴。

余妹政野五十年祭執行す。午下より、重威、いく来る。祝詞を読、夕餐を饗す。志賀氏来、演説す。

二月二十日 己巳 水曜 晴。

記事なし。

二月二十一日 庚午 木曜 晴。

午下、岩倉氏ニ教授して帰。

二月二十二日 辛未 金曜 晴。

来客、大和田氏。

払方摘要 大和田氏、十円。

二月二十三日 壬申 土曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

二月二十四日 癸酉 日曜 晴。実に天晴朗、梅見る日也。

朝散歩して、小石川仲町烏丸伯を問ひ、六角氏の盆梅数十種を見て、帰途浜野氏を問ひ、已而帰。来客、飯田貞一、岩太来。

受方摘要 三条家、三円。

二月二十五日 甲戌 月曜 十時頃より雪降り出して、一寸位に積る。四時頃より晴。

朝、散歩して帰。来客、古賀丸山昌子母奈加。

二月二十六日 乙亥 火曜 晴。

跡見千賀子一周年忌。来客、佐藤進氏細君。午下二時半より玉枝方二行、手向之素謡もあり、外に十余人の来客も有りて賑々敷、七時二帰。

二月二十七日 丙子 水曜 晴。

記事なし。

受方摘要 博文館、三円。

二月二十八日 丁丑 木曜 晴、風甚し。

午下岩倉氏に教授して帰。

弘方摘要 雑費、廿弍円〇四銭。

(二月会計、記載ナシ)

(三月)

三月一日 戊寅 金曜

朝墓参して帰。

三月二日 己卯 土曜 晴。

課業後、九段坂(空白)行社にて、愛国婦人会発会ニ付、参会す。下田哥子、奥村五百子、小笠原子爵、外二石黒中将、(空白)、島田三郎、大内青鸞氏等演舌有り。四時畢。

公園梅林花満開。梅を賞しつゝ帰。靖子田舎より帰。よほと智恵付て、あるく事も出来、

口も少々ツ、聞け、愛らしくなりたり。

\*聞け(利け)

三月三日 庚辰 日曜 晴。

朝より観世会に行、四時帰。来客、玉枝。

三月四日 辛巳 月曜 晴。三十度、大ゐに寒し。

(コノ日、記事ナシ)

三月五日 壬午 火曜 晴。

朝散歩して帰。午下、植物園中逍遥して帰。志賀氏来、談話あり。来客、大炊御門晨子。靖子田舎に帰る。

三月六日 癸未 水曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

三月七日 甲申 木曜

朝より雨しきり也。依而岩倉氏稽古断る。午下晴。

三月八日 乙酉 金曜 晴。

授業休て、朝十時伝通院にて姉小路寿子殿十七年忌御経上る。良子殿も御参詣、石山、沢、万里、外十四、五人也。右読経畢而御墓参。夫より五軒町え参る。昼飯饗せらる。四時頃帰る。

三月九日 丙戌 土曜 晴。

午下四時過より、余、桃子と同道にて、中黒にて写真撮影させて、夫より松平頼聡伯の招に応して行。岳子さま、此度浅草三筋町なる松平氏えこの十六日輿入の式を挙げられ候よしにて、酒肴を上度よし。点灯頃より酒宴始り、夜八時過帰る。右御祝ひに松魚一箱、[緋友仙](#)一反。

岳子より白縮緬一反。

受方摘要 岳子より十円。

\*[緋友仙](#) (緋友禅)

三月十日 丁亥 日曜 晴、夜二入て大雨、夜通し降つゝく。始而六十度にて暖し。

朝より揮毫ものにて忙し。五時頃より、余、桃子、菊枝と共に、六角なる盆梅を観る。二鉢もらひて帰る。帰途、浜野弓場ニ立寄、しはらく見物して帰。

三月十一日 戊子 月曜 陰晴不定。

蒲生先生送葬ニ付、三浦代理谷に会葬致させる。右玉串料五円。

三月十二日 己丑 火曜 晴。

午下、蒲生氏を問ふ。春桂も大坂より来られ、細君、其外先生、実弟にも逢ひ、生前の事共皆々泣々咄し合ひて、霊前え玉串をさゝけて帰る。

(三月十三日、記載ナシ)

三月十四日 辛卯 木曜 晴。

午下、岩倉氏に教授して帰。

三月十五日 壬辰 金曜 晴。

大和田氏来。

三月十六日 癸巳 土曜 晴。

朝四時半出門にて、余、泰と同じく上野より汽車に乗て、五時十分発車にて水戸にゆく。空、漸明むとする。此汽車ハ始めて、道筋も珍らしながら、たゞ麦畠にて所々に**くの木**林或ハ松林にて、さしたる風景もなく筑波山に**迎ひて**、土浦、霞ヶ浦などハ見るべきもの也。九時水戸に着。夫より車にて公園を観る。偕楽園の梅、満開にて異香につゞまれてゆく。この偕楽園にて案内者につれられ、先御茶屋より下座敷を観て、楼に上る。其眺望ハ実に宏大、千畳ヶ沼と云。庭園の樹木皆三百年來のもの、松樹立して、下ハ梅花雪の如く、この風色を写して、暫時**賞款**不止。看梅之人も随分多く、雑沓す。園中尽く散歩して、又旧城二行、**公道館**之碑を読む。余、少年の折**公道館**の記**講議**をも聞て、脳にハ残りたり。今之を読んで旧を思ふ。こゝにも梅花多し。元の御殿ハ幼稚園、高等女学校二成て古ひたり。**遺憾**限りなし。常盤神社の前なる清香亭にて、昼餐をゆるぐと仕度する。途中、板垣氏、加茂氏に逢ふ。午下三時之汽車、四時に発にて帰る。夜に入て雨降り出し、上野着八時半也。

弘方摘要 水戸行、十一円。

\*くの木(櫟) \*迎ひて(向ひて) \*賞款(賞翫) \*公道館(弘道館) \*公道館(弘道館) \*講議(講義) \*遺憾(遺憾)

三月十七日 甲午 日曜 晴。  
終日揮毫する。

三月十八日 乙未 月曜 晴。  
習字試験を行ふ。愛国婦人会仮事務所表札揮毫する。

三月十九日 丙申 火曜 晴。  
詠草書法試験する。来客、片平高、定治退校願出る。

弘方摘要 北村え廿円借ス。

\*借ス(貸す)

(三月二十日、記載ナシ)

三月二十一日 戊戌 木曜 晴。  
春季皇霊祭。余、愛治郎、石山基遂、及室母桃子、菊枝、栄子、幾恵、田中静、斎藤常、藤山枝子、糸子、藤の十二人連にて、午込停車場十二時廿分の汽車にて、新宿料地石山氏二行。暫時休憩して、御苑拝観す。梅花満開、籠彩なる群鳥種々を見、御鷹場なる楽羽亭玉座をも拝観し、群獸類とも皆見尽して、又石山氏に帰り、御合の物饗応ありて、ゆる／＼いとまを告て、又散歩しなから**信の町**六時何分の汽車にて帰。

\*信の町(信濃町)

三月二十二日 己亥 金曜 晴。  
この日を以て、余の試験畢。

三月二十三日 庚子 土曜 晴、夜雨。  
課業半日にして、授業納をなす。塾生もこの日より帰省する。

三月二十四日 辛丑 日曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

(三月二十五日、記載ナシ)

三月二十六日 癸卯 火曜 晴。  
朝散歩して帰。終日揮毫する。来客、万里伯。

三月二十七日 甲辰 水曜 晴。  
来客、五島善子、森本増恵父、内藤淑子父淑子此度退校ニ付、御礼ニ来る、池田愛子。書至、久岡あさ、戸田幸子。余、午下田村氏を問ふ。この度金雄独乙留学ニ付、餞別を持参する。夜に入て帰。

受方摘要 内藤淑、五円。森本氏潤筆料、十円。

三月二十八日 乙巳 木曜 晴。  
朝散歩して帰。来客、星野花子、親類の子供入塾願出る。

三月二十九日 丙午 金曜 晴、陰晴不定、風、夜ニ入て大雨覆盆。六十五度。  
朝散歩して帰。横浜左右田酉死去ニ付、香料千疋を贈る。愛治郎、悔ニ行。終日、卒業証書揮毫する。本年卒業生、三十七名也。

三月三十日 丁未 土曜 朝また雨降る。午下陰。  
揮毫ものする。来客、三条夏子様来ル。四月七日、姫路酒井家え御入興ニ付、御暇乞に成らせられる。庭園、花始而開。  
受方摘要 三条家より千疋。

三月三十一日 戊申 日曜 晴。  
明日の準備ニ忙し。

払方摘要 雑費、拾七円八十四錢五り。

\*五り (五厘)

(三月会計、記載ナシ)

(四月)

四月一日 己酉 月曜 晴、天晴朗、風もなく頗好天気也。

卒業証書授与式日也。午下一時よりの案内にて、教員諸君及生徒一同来集す。第六教場に式場を設ケ、一時半列座。先授与式、卒業生、次優等賞、勉学賞、進級証書を授ク。畢而校歌を唱ふ。校長之訓辞、次二宮内氏演舌、女子の家庭教育之事。畢而唱歌、式全畢。楼上にて一同すもし、さくら餅等の饗応にて、塾生一同接たいする。四時、庭中にて卒業生の写真撮影する。畢而一同散す。

受方摘要 細井芳子潤筆、廿円。斎藤常、五円。

\*接たい (接待)

四月二日 庚戌 火曜 晴。

朝来客、横浜茂木栄子、親戚元女連れ入り入塾願出る。原三幸、河辺氏、余、午下より三条邸二出、此度夏子君の御結婚御悦申上る。松魚一折、白紋羽二重一反を祝ふ。折から閑院宮御息所も成らせられ、拜謁して御写真を願上る。御拵之御道具万端拝見して帰る。所々の花、三部の一咲出て、例年より八五日間の早き方也。

\*三部の一 (三分の一)

四月三日 辛亥 水曜 晴。

早起。余、菊枝と同じく東台の花を見而、たゞ戻る心ながら、先四分の盛りにて、先絵に写したらむとおもふハ、西郷銅像の腰よりかけて桜の枝の横たはりたる東照宮の裏手、西洋軒のわたり、杉松亭々たる間に、白ら雲の起るかと思ふやうに、花の咲出たるに、遠く弁天に池のわたり、霞に断続したるさま、また大仏のうしろより写生したらと思ひ、本取出して見れば、鉛筆いつこえ落したるや、これぞ落胆なり。花見る人にて朝ながら雑沓おそるへし。校友会幹事、室母相談会、開く。「大仏図」

\*西洋軒 (精養軒) \*弁天に池 (弁天か池)

四月四日 壬子 木曜 昨夜より雨、晴雨不定、四時頃より晴、夜月清光。  
入塾、中村元子、同、新見たか。庭中桜花満。

四月五日 癸丑 金曜 晴。

授業始を執行す。入門、山崎八重、小泉せい。入塾、中村きぬ、植竹かつ、来栖篤子。訃音、橋本長蔵三日午前三時死去。直ニ電報ニテ訃弔。余、慶応卯年頃京都岡崎ニ住居、香川景嗣の建築なる茶室ハ松枕庵。  
受方摘要 来栖篤、十五円。三条末、一円五十銭。  
弘方摘要 詩経十冊、左氏伝十五冊、三円五十銭。

(四月六日〜九日、記載ナシ)

四月十日 戊午 水曜

植物博士伊藤篤太郎氏、この水曜日より理学を講ず。毎水曜出席なり。

(四月十一日、記載ナシ)

四月十二日 庚申 金曜

来客、元田中芳子、久々にて来り、一宿する。

四月十三日 辛酉 土曜 晴。

校友会執行。先講堂北の間には衣街飾、生花及外に大花瓶に插花甘台を飾付、南の坐にも同しく食堂を設ケ、この両間に来賓を置く。午下一時半、一同六号教室を式場とす。北白川宮満子女王、貞子女王殿下成らせられる。一同着席、生徒一同君か代を唱ふ。余、この会の挨拶を朗読す。畢而桃子、会計報告す。畢而島田三郎、女子ニ有蓋なる演舌、一時間余に渡る。野中至氏、不二観則演舌あり。畢而園遊会と成、皆々庭ニ出。接待員ハ塾一同、先御茶屋を設く。柏餅、桜餅、御すもし、みかん、おでん、きんかんかんざし、ゆで玉子の類也。余興ハ女子の音楽隊、写真、向島寒山の即席焼物、ちく音器、島田氏の演舌も入ル。表門には巡查五人衛ル。来会者三百余人、実に近年稀なる盛会なり。五時楼上にて弁当を饗す。会員の寄附ハ松月堂の美しき菓子箱入、ちゝみの半かち也。点灯頃来賓皆帰る。二続会、塾のみにて園中紅灯を点じ、又盛んに遊び楽しむ。九時全畢。晴天にて空のあんなじなし。

\*衣(街(ママ))飾 \*有蓋なる(有益なる) \*観則(観測) \*ちく音器(蓄音機)

\*ちゝみ(縮) \*半かち(ハンカチ) \*あんじ(案じ)

四月十四日 壬戌 日曜 晴。

昨日のかた付物に忙し。午下、余、室母と外に十二人連にて植物園に行。大日本婦人教育会総会也。閑院宮妃殿下会長、毛利安子様を始、先在着席。殿下と共に園中御散歩、又元の坐にならせられ、三時過、毛利五郎男会計報告。畢而園遊の落語、広田氏琵琶、又円遊の落語にて余興済、茶菓にて相済帰る。

\*園遊(円遊)

四月十五日 癸亥 月曜 晴、夜九時頃より大雨。  
課業畢る。来客、佐野隠居、松野を連て御礼に来る。午下四時より北白川宮、閑院宮え詣して、日暮帰る。

松のより白縮緬一反。

受方摘要 斎藤氏より五円。

四月十六日 甲子 火曜 雨。

記事なし。

弘方摘要 校友会え寄附する、五十円。

(四月十七日、記載なし)

四月十八日 丙寅 木曜 晴。

午下、岩倉氏に教授して帰。

四月十九日 丁卯 金曜 晴。

午下、横浜原氏夫婦来る。久々にて種々閑談、御合のものを饗す。五時帰らる。

原氏より白地滝しぼ一反。

\*白地滝しぼ(白地滝皺)

四月二十日 戊辰 土曜 朝雨、午後晴。

終日揮毫する。

四月二十一日 己巳 日曜 晴。

朝十時より、余、栄子を連て、観世宅にて高安氏追善能見物して、五時帰。来客、来栖細君、瀬川さわ、後藤幸子、田中源太郎。入塾、久米利根子、矢渡はる。

受方摘要 矢渡春、三円。

弘方摘要 能散敷代、二円。

\*散敷(栈敷)

四月二十二日 庚午 月曜 晴。

午下、墓参して帰。

弘方摘要 藤の盆栽、一円廿銭。

四月二十三日 辛未 火曜 朝より雨にて、午下晴。  
入塾、小野久和子。来客、小野氏妻、来栖妻、入塾願ひになり。  
受方摘要 小野氏より廿五円。三条夏子、十五円。

四月二十四日 壬申 水曜 晴。  
下婢さと、父の病氣二付、帰郷す。

四月二十五日 癸酉 木曜 晴。  
午下、岩倉氏に教授して帰。帰途有約、中山栄子の君を問ふ。清水連城、高城氏来る。謡  
三番をうたふ。閑談して点灯頃帰る。来客、竹内錦子、その母と御暇乞に来る。廿八日と  
つきの式挙ぐる、然れども書画の稽古にはもとの如く来るよし也。余、不在中にて不逢。  
\*とつき(嫁ぎ)

四月二十六日 甲戌 金曜 晴。  
午下、閑院宮妃殿下に御教授申上て帰。大和田氏来。袷着初む。

四月二十七日 乙亥 土曜 雨。  
課業畢る。揮毫する。  
弘方摘要 銀行に預ける、百円。

四月二十八日 丙子 日曜 晴。  
朝、栄子、鶴子、青木幾恵、横浜原氏御祭り二付、七時之汽車にて行。余、桃子同道にて、  
田村氏田畑別荘二行。九時過出門。

高 砂 万三郎 つゝみ長子  
熊 野 六郎  
源氏供養 福田重固  
桜 川 富安氏 つゝみ峰子  
善知鳥 福田芳  
蘆刈能 田村氏 つゝみ梭子  
藤太鼓 仕舞 桃子 つゝみ梭子  
山 姥 花  
弦 上 実  
\*田畑(田端) \*藤太鼓(富士太鼓) \*打けうしたる(打興じたる)

十一時より始り、午下六時畢。会席にて、又八時過まで謡、つゝみにて打けうしたる。余、  
八時帰。栄子等連、九時帰。

四月二十九日 丁丑 月曜 晴雨不定。

この夜十一時、王子御降誕。嬉しさの限り也。国のため、世のための万歳々々万々歳。

今そしる皇国の栄えいや栄え日つきの御子のみあれましゝを

\*つきの御子(嗣きの御子)

四月三十日 戊寅 火曜 晴。七十二度。

課業畢る。

弘方摘要 大和田氏え五円。

(四月会計、記載ナシ)

(五月)

五月一日 己卯 水曜 晴。七十二度。

朝、墓参して帰。皇子御降誕ニ付、国旗ヲかゝく。大学を始め、大ていは休業也。課業如例。

\*大てい(大抵)

五月二日 庚辰 木曜 晴。

課業畢而午下田村氏を問ひ、又岩倉氏に教授して、また九条邸に皇子御降誕の賀を伸ふ。恵子様、仲川としばらく話して、恵子様御誕生の光子様見上る。中々よき姫君也。皇室にて御正腹の皇子様ハ、醍醐帝の時九条家より御入内の皇后に御降誕あらせられてより七百年の今日、又この皇子を御降誕あらせられたる、珍らしき事共也といふ御咄しも有。いかなる御厚運の御事にや。夫より帰途、裏松氏を問ふて帰。

五月三日 辛巳 金曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

五月四日 壬午 土曜 晴、夜九時頃より雨降出す。

皇孫御降誕ニ付、休業す。塾生も三分の一帰省す。余、午下三時頃より栄子と同しく、五軒町を問て帰。

五月五日 癸未 日曜

皇孫御命名御式ニ付、奉祝す。市中の賑ひいかはかりならむか。朝より雨にて、午下漸雨止。

号外ニテ、

同宮御名 裕仁 迪ノ宮

日比谷原ニテ花火百数十、軍艦ニテハいつれも百一の祝砲、市中ハ戸毎に日の丸の提灯、国旗をかゝく。所々中学にてハ、提灯行列ありたるなり。余、栄子、鶴子を連て観世会ニ行、四時過帰。

\*〔裕(ヒロ)〕仁 \*〔迪(ミチ)〕ノ宮 \*祝砲(祝砲)

五月六日 甲申 月曜 晴、陰晴不定。

課業如例。桃子、菊枝、亀井戸藤、本所の牡丹看に行、六時頃帰る。

\*亀井戸(亀戸)

五月七日 乙酉 火曜 陰晴不定、夜雨。

志賀氏来、講話する。退塾、吉田楽子。

受方摘要 吉田楽より三円。

五月八日 丙戌 水曜 時尚寒し。袷に綿入羽織ニテ寒し。

入塾、今津町子。来客、姉久子。

五月九日 丁亥 木曜 陰晴不定、後雨。

入門(コノ日、以下記述なし)。余、午下岩倉氏に教授して帰る。

五月十日 戊子 金曜 雨、終日雨降通し、夜たゞ降つゝく。

閑院宮様御稽古日も、雨にて御断申上る。来客、小笠原長祥使来る。照子習字教授願出る。

書至、天下茶屋寺田善左衛門、田中三五郎。横浜石井安子、本月六日死去のよしニ付、香料千疋を備る。

受方摘要 寺田善左衛門、田中三五郎、金百円、屏風潤筆。

\*小笠原長祥(小笠原長幹) \*備る(供る)

五月十一日 己丑 土曜 雨。

書を寄す、寺田善左衛門、田中三五郎。

五月十二日 庚寅 日曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

五月十三日 辛卯 月曜 晴雨不定。

来客、美野部姑子、小児を拉し来る。

\*美野部姑子(美濃部姑子)

五月十四日 壬辰 火曜 晴。

朝十時過、皇后陛下植物園行啓、門前御通行二付、生徒一同奉迎す。午下五時過、御還啓奉送す。来客、五木田氏時子退校の御礼ニ来る、玉枝、大和田氏。下婢松、**解曜**す。

五木田氏より白縮緬一反。

\*解曜(解雇)

五月十五日 癸巳 水曜 晴。

朝、墓参して帰。

五月十六日 甲午 木曜 朝曇、十時頃より雨、已而晴。

午下、岩倉氏に教授して帰。

五月十七日 乙未 金曜 晴、深更ニ大雨。

大和田氏、石山須磨子、岡崎忠子来られて、午下三時半より素謡会をなす。

**忠 則** すま子 雲林院 桃子

**小原御行** 花蹊 杜 若 忠子

濟、大和田氏帰られて後、また松風。夜ニ入て皆々帰られる。

\*忠則(忠度) \*小原御行(小原御幸)

五月十八日 丙申 土曜 雨、晴雨不定。

書至、芸州久岡あさ。

五月十九日 丁酉 日曜 晴。

来客、久米万千代及外三人。

久米子共より、セル地耆尺。

五月二十日 戊戌 月曜 晴、風。

朝五時前、電報着。安斎勝子母危篤ニ付、直ニ帰国す。余、朝五時、白山神社ニ参詣す。此度同社建築落成ニ付、正遷宮式、昨今明日迄大祭也。下婢さとの父危篤ニ付、直ニ可帰様申来、直ニ帰郷す。中山本太郎氏より、安子事本月六日神戸市栄町五丁目田辺直一と結婚之由、申来る。また小林政子祖父危篤ニ付、帰省する。  
弘方摘要 白山神社え一円。

五月二十一日 己亥 火曜 晴、夜雨。

志賀氏来られ、講話あり。余、戸田氏ニ教授して、帰途田村氏を問ひて帰。白山神社御輿門内に御入になる。また花車七本続々来る。当地ニは珍らしき賑はひです。

五月二十二日 庚子 水曜 晴。

業畢而、余、桃子、泰、栄、鶴を拉して、五軒町祖先祭典ニ参詣す。日暮帰。来客、万里伯、石山御代丸、大炊御門氏。伊藤博士来。本草学講義をきく。

五月二十三日 辛丑 木曜 晴。

朝、瓜生会なる扇子十本揮毫する。

五月二十四日 壬寅 金曜 晴、朝雨にて十時頃より晴。

午下、閑院宮御息所に御教授申上て去る。

五月二十五日 癸卯 土曜 陰雨不定。

課業後、揮毫する。入塾、大河内米子。来客、米子父、叔父、保証人。

白木綿三反。

五月二十六日 甲辰 日曜 晴。

汲泉第三号出来。宮城皇后宮え二部献上。東宮御息所え二部献上。当府下及地方え発行郵送す。

五月二十七日 乙巳 月曜 晴。

朝八時より上野美術協進会二行、美術品及絵画を見て帰。

五月二十八日 丙午 火曜 晴。

休業。来客、**重たけ**、いく子。横浜より井上氏来り、一泊す。

\***重たけ**(重威)

五月二十九日 丁未 水曜 晴。

井上氏帰浜す。書至、田中建三郎氏、来月二日茶話会招待。来客、田辺安子。受方摘要 田辺安子、廿円。

五月三十日 戊申 木曜 晴。七十五度。

午下早々戸田氏、岩倉氏ニ教授して帰。書至、越中高岡市旅籠町関一郎、真綿及短冊二枚。

五月三十一日 己酉 金曜 晴。

午前一時頃より大雷雨復盆、夜明快晴。此時齋藤常病起。大和田氏来。  
弘方摘要 大和田氏え五円。  
\*復盆(覆盆)

(五月会計、記載ナシ)

(六月)

六月一日 庚戌 土曜 晴。  
終日揮毫する。

六月二日 辛亥 日曜 雨、終日雨降つゝく。  
早起。四時より、泰、井上氏、江の島に行、夜七時頃帰。午下三時より、余、桃子と同しく田中建三郎氏茶話会ニ行。西郷夫人及令嬢、香川塩子、其妹、松平夫人、下田哥子、上野夫人、余、桃子、原礼子等、同食卓にて種々談話。立食の饗応にて、五時帰。下婢さと帰来る。同梅、病氣ニ付宿え帰る。

六月三日 壬子 月曜 雨。  
画の揮毫日ニ付、揮毫す。降旗元太郎来る。田辺安子、今六時之汽車にて帰国暇乞ニ来る。

六月四日 癸丑 火曜 雨。  
課業畢る。余、風邪ニ而臥。

六月五日 甲寅 水曜  
余、微恙臥す。課業如例、畢而臥す。近藤八重子退校す。  
近藤氏より七子一反。

六月六日 乙卯 木曜 晴、夜大雨。  
訃音、山県保兵衛昨五日死去す。桃子、山県氏え悔ニ行。香料金千疋。

六月七日 丙辰 金曜 陰雨不定、夜雨。  
母の忌日ニ付、祭典する。余、微恙ニて終日臥。

六月八日 丁巳 土曜 晴。  
漸病快よくて起。課業例の如し。浅草婦人法話会春期大会日ニ而、余の代理として桃子、

栄子を遣はず。観世新築落成舞台開き二付、松魚大一折、白七子一反、金十円を祝ふ。  
弘方摘要 婦人法話会、二円。同五、六、二月分、六十銭。観世え舞台開、十円。

六月九日 戊午 日曜 晴。七十五度。

午前八時半より、余、桃子、菊枝と同しく、観世舞台開二行。満場立錐の地もなく、実に隆盛なる会也。建築も立派にて、すへて都合よく出来せり。人と暑さにて、一番を残して帰る。

六月十日 己未 月曜 晴。七十五度。

午下早々観世会二行。此日も同様、立錐の地もなき有様也。漸昨日にこりて場所を取置て先々安心なり。六時には電気も付て、石橋二人獅子も見事也。畢迄見物して帰。

\*こりて(懲りて)

六月十一日 庚申 火曜

課業畢。志賀氏来る。大坂正覚寺今幾多千鶴より書至。来ル十四日願泉寺見枝の五十年回ニ相当ニ付、志として帛紗一枚を贈る。この見枝の稚友ハ箔や亀、石と余のみなるよし申来る。

六月十二日 辛酉 水曜 晴。

課業畢る。絹本に蓮の画に、

手向にとかきつるはすの花の中にこもる涙をかけませよ君  
とかいつけて、正覚寺千鶴子え贈る。

六月十三日 壬戌 木曜 晴。

課業畢る。正午より戸田氏、岩倉氏に教授して、田中健三郎氏を問ふて、五軒町に行。此度、水薬寺鏡台院殿滞在ニ付、問ふ。久々にて旧を話して、日暮帰。

\*水薬寺鏡台院殿(水薬師寺鏡台院殿)

六月十四日 癸亥 金曜 晴。

課業畢る。正午早々閑院宮御息所に御教授申上て、帰途岩倉氏に行、梭子ニ教授して帰。受方摘要 閑院宮様、三十円。

六月十五日 甲子 土曜 朝雨降出し、正午より晴。

朝、墓参して帰。

六月十六日 乙丑 日曜 晴。

朝、散歩して帰。午前、中村元嘉氏に敬子の病氣を訪ふ。追々快方ニ趣き、枕もとにて暫時話して帰。来客、藤山三郎、同妻、枝子従弟 枝子の退学の御札に来る、山かた孝。受方摘要 藤山氏潤筆、十円。

\*趣き(赴き) \*山かた孝(山県孝)

六月十七日 丙寅 月曜 晴。

朝散歩して帰。終日揮毫する。この夜、衛生幻灯会を執行す。七時点灯より始り、十時過済。桜井平衛生談、其外説明す。

六月十八日 丁卯 火曜 晴。

課業畢而揮毫する。

六月十九日 戊辰 水曜 晴。

課業例の如し。書至、大坂今幾多千鶴、同長男玄英、次男玄崇。

六月二十日 己巳 木曜 晴。

朝六時より岩倉、戸田氏へ行、教授して帰。課業例の如し。今井千枝子来る。

六月二十一日 庚午 金曜 夕景より雨にて、夜通し降つゝく。八十度。

課業畢而、午下岡崎忠子さま御出にて、素謡三番にて、夕飯を喫して帰られる。夕景、表二号外の声する。買して見れば、星亨暗殺せらる。

東京市参事会議事堂ニ於テ、突然伊庭想太郎氏に刺殺され、遂ニ其儘現場に絶命する。

\*買(し)(ママ)

六月二十二日 辛未 土曜 雨。

朝、祭典する。

六月二十三日 壬申 日曜 朝よりくもりにて、ふりもせず照りもせずの空、四時頃細雨ふり出、やかてやむ。

午下早々宝生会へ行。岩倉氏の招に応ず。四時畢而帰る。来客、志賀鉄千代。夜、五軒町来る。

六月二十四日 癸酉 月曜 晴。

揮毫ものする。来客、江副米子。

(六月二十五日、記載ナシ)

六月二十六日 乙亥 水曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

六月二十七日 丙子 木曜 晴。

早六時より岩倉氏、戸田氏に教授して帰。生徒文章の試験する。この日は星氏の葬送日にてか、夕方よりの雨、夜通し降しきる。実に物すごくおそろし。清めの雨なるへし。

\*早六時(朝六時)

六月二十八日 丁丑 金曜 陰晴不定。

正子、この朝ハ先起て、例のことくなりしも、少しツ、腹痛の**気み**にて床をのへて居る。十時頃に先々産婆を呼にやりて、先今晚か明かたの事と言ひて、余ハ教場に出たるか、腹痛のしきり、三ツ目にもはや出産したり。一同の狼狽一方ならず。井深氏早速来りて、先取あけをする。いかにも壮健なる男子也。この時十一時也。その後産婆のかたより弟子二人かけ付来る。やゝありて産婆来りて、**跡**の始末をする。実にあまりの早さにて産婦も夢の如くにて、障りなし。かゝる安産は始めて也。

\*気み(気味) \*跡(後)

六月二十九日 戊寅 土曜 晴。八十三度、熱甚し。今年の始てのあつさ也。

来客、石山すま子。書至、今井猪太郎。

受方摘要 水薬師より五十銭。

六月三十日 己卯 日曜 雨。六十八度。

朝より終日雨降りつゞく。来客、角田栄子。同、藤岡君の妹なる市川栄子。

(六月会計、記載ナシ)

(七月)

七月一日 庚辰 月曜 雨。六十六度。

朝、祭祀を行ふ。水薬師鏡台院真照及真教殿え物品を贈る。

七月二日 辛巳 火曜 雨。六十九度。

来客、水薬師鏡台院及真教、跡見はる、いく、山形きく、市川氏。

七月三日 壬午 水曜 雨。  
命名式、雄タケシト云。

七月四日 癸未 木曜 晴。  
この日十時の汽車にて、雄児石神井村高橋え里に遣す。豊田市五郎附添て行。天気都合もよく、一日のはれ也。

七月五日 甲申 金曜 雨、朝少々雨にて陰る。  
余、腹痛はけしく、腸かたるにて、医師注射する。腹痛下痢ハ止たるか、気分あしきハマたなき事也。生れてはじめて注射をうけたる。夜通しうなり通し也。来客、横浜より原安子、出産の悦に来たる。余ハ病氣にて不逢。

受方摘要 生源寺、三円。平田、三円。樹下、三円。大東、三円。三条家、十円。  
\*腸かたる(腸カタル) \*あしき(悪しき)

七月六日 乙酉 土曜 雨。  
あさ、はじめて気分も本の通りになりたり。来客、久々廿年ふりにて内村小芳訪はれたれとも病にて不逢。

井深氏よりなるみ二反。  
\*なるみ(鳴海)

七月七日 丙戌 日曜 雨。  
観世会装束納なから、余ハ病氣にて不参。愛治郎、桃子、栄子、弘四人行。

七月八日 丁亥 月曜 雨。  
臥蓐する。

七月九日 戊子 火曜 雨。  
終日臥蓐す。来客、跡見玉枝、小児祝ひ物持来ル。

玉川、浴衣二反。  
受方摘要 山田梅、四円。

七月十日 己丑 水曜 陰。  
書をよす、金沢俵松子、松平豊子、藪兼子。  
田村氏より御召一反。  
受方摘要 藪兼子、三円。園祥子、三円。

七月十一日 庚寅 木曜 雨。  
来客、佐野隠居、**横横**井上。

受方摘要 斎藤常子、十二円五十銭。原氏より三十円。  
\*横横(横浜)

七月十二日 辛卯 金曜 陰晴不定。

課業畢る。中元之贈り物する。三条様、志賀氏、小松宮、閑院宮、北白川宮、岩倉氏、島田氏、南条氏、蒲生氏、渡辺重石丸、戸田氏、田村、五軒町。  
宮本氏より翁縮緬一反、白かすり一反。

受方摘要 今城友、二円五十銭。五軒町、二円五十銭。  
弘方摘要 買物、二円十五銭。

七月十三日 壬辰 土曜 晴。八十三度。

課業畢。来客、跡見はる、岩浪稻子、原三幸。  
井上秋、**岩国ちゝみ**。三村つき、御召一反。

受方摘要 小笠原氏、一円廿五銭。安田暉、三円。上杉氏、一円。西村政、二円。松平★  
(金十米十夕十年)、二円五十銭。松平栄、二円五十銭。

\*岩国ちゝみ(岩国縮)

七月十四日 癸巳 日曜 雨。六十八度。

来客、跡見玉枝。書至、**賀州**俵松子。

受方摘要 松平妙、三円。

\*賀州(加州)

七月十五日 甲午 月曜 雨、終日終夜雨ふり通したり。

父の祭典を行ふ。午下、子供等と墓参する。書をよす、**美**の後藤陽、伊勢多豊。

毛利家、**岩国ちゝみ**二反。戸田氏、**すきや**一反。

受方摘要 戸田氏、七円。毛利家、五円。徳川氏、十五円。

弘方摘要 **わし田**え一円。弘え一円五十銭。

\*美の(美濃) \*岩国ちゝみ(岩国縮) \*すきや(透綾) \*わし田(鷺田)

七月十六日 乙未 火曜 晴、午下六時頃雨降り出す。

けふは先々晴らしく。書をよす、加州俵松子、尾州徳川良子、勢州多豊子え小包にてゆかた出す。

受方摘要 酒井藤子、壹円廿五銭。

七月十七日 丙申 水曜 雨、終日の雨なり。  
来客、塩川千夏。

七月十八日 丁酉 木曜 晴、先々珍らしき晴なり。陰晴定まらず。  
朝、戸田氏二行、稽古納をなす。田村氏を問て帰。岩倉氏使。閑院宮様御使田尻幹。午下、  
閑院宮様え参る。近廿一日京都え御出発に付、御暇乞に参る。御一統様二拝謁いたして帰  
る。五軒町を問て帰。

閑院宮様より夏縮緬一反。岩倉よりすきや一反。  
受方摘要 岩倉氏、廿円。  
\*すきや(透綾)

七月十九日 戊戌 金曜 晴。  
小松宮御使来ル。来客、重たけ、山形きく。  
受方摘要 小松宮、二円五十銭。  
\*重たけ(重威)

七月二十日 己亥 土曜 晴。  
弘児、学修院之水エイニ六時出門、新橋二行。余、朝散歩して帰。来客、中井敬所、内田  
孝、中島竹。書をよす、新宮小畑かつえ。同、姉小路三位様え、外に包物を贈る。  
\*学修院(学習院) \*水エイ(水泳)

七月二十一日 庚子 日曜 雨、晴雨さたまらず。  
朝かた三時頃大雨盆をかへす。終日天不定。入塾、大河内峰子。午下六時廿分汽車にて、  
閑院宮両殿下、姫宮三方共西京ならせられる、二付、新橋迄御見立に参る。御一統様御機  
嫌よく御出発あらせられる。直に帰宅す。  
\*ならせら(れ(ママ)る、)

七月二十二日 辛丑 月曜 晴雨不定。  
来客、茂木栄子。  
御召一反。  
払方摘要 銀行え預ル、百八十円。

七月二十三日 壬寅 火曜 晴。  
課業例の如し。尾州徳川氏、今幾多氏、小野氏、暑中見舞を出す。  
受方摘要 矢野要、二円。

七月二十四日 癸卯 水曜 晴。月はじめて清光、珍らし。八十二度。

授業納をなす。午下より塾生続々帰省する。四十人余也。来客、石山すま子、[重たけ](#)、い  
く、[星の花子](#)、来栖母。

小西つね、浴衣地一反。来栖氏、浴衣地一反。

\*重たけ(重威) \*星の花子(星野花子)

七月二十五日 甲辰 木曜 晴。

朝散歩して帰。書をよす、平塚浦四三子、志摩稻垣銃子、横須賀山崎釧子。塾生大略帰省  
する。書をよす、京都大聖寺、小包もの出す。同(京都) 木田氏、同。[美の遠藤氏](#)、同。  
大坂唯専寺、同。同(大阪) 寺田氏、同。

\*美の(美濃)

七月二十六日 乙巳 金曜 晴。

朝散歩して帰。終日揮毫ものする。塾生一同帰省する。

七月二十七日 丙午 土曜 晴。八十三度位ながら、風なくむし暑くて、午下五時頃より  
大雨、夜に入て晴。

朝散歩して帰。雄祝ひ物、鶴の子餅、赤飯等くばりものする。来客、山崎初喜母。房州姉  
小路より、あぢの干物着。書をよす、山内節、片平定、千葉長尾氏、姉小路、香川石山。  
山崎氏より[たてしほ](#)一反、[近江かたひら地](#)一反。

\*たてしほ(縦皺) \*かたひら地(帷子地)

七月二十八日 丁未 日曜 雨又晴。八十六度、むしあつく堪かねる。

早起。余、正子、桃子、栄子、鶴、菊枝、吉野と同道にて、氷川神社に参詣す。此日は雄  
児宮参りなれとも、田舎にて宮参りさせたり。この時、雨に逢ひ帰。已而空も晴わたり。

七月二十九日 戊申 月曜 晴。清暑。夜二入てさつと雨ふる、やかて晴。八十八度。

来客、昼前より石山すま子、大炊晨子。観世より橋岡来り、素謡はしまる。四時頃畢。す  
ま子、橋岡も帰る。牛込初子、内田恒子。観世★(金+麗) 治より[うつら豆](#)着。

\*うつら豆(鶉豆)

七月三十日 己酉 火曜 晴。八十八度。

奥の掃除する。余、五軒町え暑中見舞二行て帰。書をよす、台湾田辺安、札幌観世★(金  
+麗) 治 反物小包出す、内田わか、御所良子さまえ。

七月三十一日 庚戌 水曜 晴。八十八度。月十五夜、真に鏡の如し。  
早起。白山神社に参詣して帰。余の居間二間、掃除する。来客、浦四三子。大和田氏え金拾円、**かたひら**一反を贈る。

\*かたひら(帷子)

(七月会計、記載ナシ)

(八月)

八月一日 辛亥 木曜 晴。八十八度。

早起。墓参して帰る。来客、橋本宗治郎、北村、田中国子。返書よす、京都閑院宮、小泉竹、松平とも子、林のふ、大坂**角の久吉**、入間米倉千賀、**みの遠藤**ゆた、**千は**佐久間さわ。

\*角の久吉(角野久吉) \*みの(美濃) \*千は(千葉)

八月二日 壬子 金曜 晴。八十八度。

朝より霧雨ふりながらむしあつく、堪かねたり。やかて晴わたり。正子里方え暑中見舞二行。書をよす、浦太郎 小包にて病氣見舞物送る、**大はし光吉** 同様、紀州尾畑え 翁縮緬一反、辻八千え しき布、**鎌くら**弘え 菓子、永井房え、松平岳子、中村敬子。

\*大はし光吉(大橋光吉) \*鎌くら(鎌倉)

八月三日 癸丑 土曜 晴。八十八度、世間は九十三度位のよし、月もまた晴光。

早起。散歩して帰。来客、近藤八重、貴、きく、駒終日。両国川**ひらき**日にて、天気もよし、あつさも**はけし**、月もよく、雑沓思ひやられる。

\*川ひらき(川開き) \*はけし(激し)

八月四日 甲寅 日曜 晴。九十一度、始ての暑さ也。

終日揮毫する。書をよす、小早川式子、今村栄、斎藤仁子、万里小路とし子。  
払方摘要 三浦え餞別、二円。

八月五日 乙卯 月曜 晴。九十五度に上る。

朝散歩して帰。三浦氏、正午之汽車にて帰国す。来客、小山氏、岡部清子。  
払方摘要 泰え餞別、十円。

八月六日 丙辰 火曜 晴。九十度。

朝散歩して帰。泰、井上兩人、朝六時一番之汽船にて渡房す。来客、五島善子夫人。

受方摘要 五島氏、千疋。

八月七日 丁巳 水曜 雨。飛て七十度、二十五度位の差也。  
朝起。頓に涼しく、やかて雨降出し、実に待にまちたるかひ有て、黄金のふりくるか如し。  
終日揮毫する。

八月八日 戊午 木曜 陰。七十度。  
朝より余、栄、鶴、友子、吉野を連て、植物園に写生する。同園もよほと趣をかへて、目  
新らしく覚ゆ。昼前に帰る。来客、石山すま子。

八月九日 己未 金曜 晴。六十五度、さむし。午晴わたりて漸七十度に上ル。  
朝八時、本所の汽車にて、桃子、さくら堀田家二行、一泊す。弘、絵の島水泳より無事帰  
着、十一時過也。

\*さくら(佐倉) \*絵の島(江ね島)

八月十日 庚申 土曜 雨、終日晴間なく雨ふる。七十度。  
終日揮毫する。桃子夜八時過帰宅する。忒尺巾絹本堅物二幅、老松旭日、梧桐秋菊之図、  
鷺田え渡す。

八月十一日 辛酉 日曜 晴。午下漸八十度に上る。  
来客、大橋幸子、跡見三治郎。

八月十二日 壬戌 月曜 晴。八十六度。  
揮毫する。返書よす。伊藤さた、長谷川幸、大川たよ、安斎勝。

八月十三日 癸亥 火曜 晴。八十九度。  
来客、終日岩佐亀子。弘、石神井高橋え行。靖子田舎に帰る。

八月十四日 甲子 水曜 晴。九十二度。  
この日の暑さにハ打勝へきちからもなく、あくみはてたり。風は夜に入てもなく、むし風  
呂の如き也。  
\*ちから(力) \*あく(倦)

八月十五日 乙丑 木曜 晴。九十度。  
朝四時より墓参して帰。返書よす、加納美保子、土井早苗、松山桂子、大吉林子、松永道  
子、塩川千夏。

八月十六日 丙寅 金曜 晴。九十二度。  
昨夜よりむし暑くて、とうとう夜すからいねもやられずして返書よす、後藤陽、有吉静子、俵松子、長江万子。この時、午前三時也。石山氏、鷺田氏、明石の三人連にて、朝五時出發にて富士詣する。朝より堀田夫人伴子さま御出にて、種々物語りなどして、午下五時御歸り也。

受方摘要 堀田氏、二円五十銭。

八月十七日 丁卯 土曜 晴。九十度。

屏風川柳鯉魚之凶にかゝる。泰、夜横浜より九時過歸る。房州より横須賀、横浜原氏に着、一泊して歸。

八月十八日 戊辰 日曜 晴。九十度。

屏風揮毫する。朝より宮原氏、橋本兩人、小木曾氏来る。午下三時頃歸る。石山氏之一行、富士より歸る。午下一時過。三浦氏も国元より歸る。同時間也。

八月十九日 己巳 月曜 晴。八十六度。

屏風落製する。返書よす、台湾田辺安子、鎌倉長谷川千賀子、広島久岡あさ子、佐賀藤山えた子、千葉池田ろく子。

八月二十日 庚午 火曜 晴。八十八度。

(コノ日、記事ナシ)

八月二十一日 辛未 水曜 晴。八十八度。

朝四時より、余、愛治郎、泰と三人連にて、入谷朝貌を觀、艸花甘鉢ほとまとめて、不忍の蓮花を觀て歸。終日屏風揮毫する。

八月二十二日 壬申 木曜 晴雨究りなし。

朝八時より、余、栄、鶴の三人連にて、石山家行。この時、讃岐人田村象岳六歳七ヶ月なる童子ハ、両手と足の左の足くびなし、不具者にして演舌ハ大人も及はぬ位に感動を与へ、又書もよくかき、風琴など頗妙也。聴聞者も是ハ何といふへきか、奇童也。五時、栄子、鶴子ハ帰宅す。余は一宿する。この朝四時より、愛治郎、泰、石山氏、加島二行、一泊。  
\*究りなし(極りなし) \*加島(鹿島)

八月二十三日 癸酉 金曜 雨。

この朝、桃子迎ひに来る。午下三時頃、途、桃子と同じく帰宅する。やかて愛治郎、泰、

基遂の三人、加島、香取、成田参詣して無事帰宅する。

\*途(余) \*加島(鹿島)

八月二十四日 甲戌 土曜 雨晴定まらず、夜一時二時の間大雨雷鳴甚し。八十五度。  
来客、堀田家使来りて、此頃の月、虫の音盛りなれば、一夜かけにてきたれとの事にて、承諾する。

八月二十五日 乙亥 日曜 雨晴定まらず、夜月清し、又すゝし、頗良夜なり。八十二度。  
来客、石山基康。まつ、とく、来る。とく一宿。

八月二十六日 丙子 月曜 晴。八十六度。  
来客、跡見甚司、鈴木もと子、此度縁談齊ひて、退校御礼ニ来る。

八月二十七日 丁丑 火曜 晴、夜月清し。  
朝四時より、余、愛治郎、泰と同じく、入谷に行て、草花数種を求めて、不忍の蓮花を見て帰。蘆雁屏風落製する。

八月二十八日 戊寅 水曜 曇。すゝし。  
余、桃子と同じく七時出門、本所八時の汽車にて、佐倉堀田家ニ行。この汽車始めてにて、道すから青田の平坦なる佐倉迄同し。九時半頃着。迎ひの車夫来りて、それで堀田家ニ着。御主人御夫婦大御満足にて、何も打とけて御物語りもなし、先昼げも済て、御書齋にて御煮茶など、御古器物など拝見して、御庭ニ出。御庭園の模様ハすへて芝生二百日紅の盛り、芙蓉秋艸などおのかまゝに咲出たり。向三面は皆青田に小高岡有て、眺望頗風致あり。御夫婦の君の御案内にて、御家居ハよほど高く、段々と下にをりて行、松はやしも過て、しらすゝ元の御庭ニ出る。地坪式万足らすとや。浴後夕げも済て、また広やかなる御庭に、床或はとんなどに坐して、この夜の望月を見る。雲かゝりて、折々は月影の見ゆるもまた風情あり。九時頃迄月虫の音を賞して、各寐ニつく。

\*煮茶(煎茶) \*芙蓉秋草(芙蓉秋草) \*をりて(降りて) \*とん(榻)

八月二十九日 己卯 木曜 曇。

朝四時、伴子の君寐所に来られて、暁の虫の音聞も興也とて、皆々起出て、御夫婦御案内にて、所々艸むらに虫の音のいろゝなるを聞分るもまた興深し。かねて御催しの朝の茶事、正五時梅林中の御すきやにて。御案内にてまづ待合に入る。御亭主、主人公也。上客、余。詰、桃子。御庭の掃除は申に及ばず、水もよく打なして、露けき清らかににて、床には不昧公の楽の一字。会席畢而中立、後席、床大なる白蓮唐物の酒壺に入れ、頗清し。濃茶白むかし、種ニ趣有り。畢而次の御広間にて、閑談に時を移し、午下農事試験場にまた

御夫婦の御案内にて、主事なる人、実物に附ての解あかしあり、面白し。花だんに入て、  
艸花の根とも種々いたゞく。実に安樂世界、世の外の心地する。四時、夕飯いたゞきて、  
御暇乞して五時の汽車にて帰る。  
\*御すきや(御数寄屋) \*清らかに(に(衍)) \*解あかし(解明かし) \*花だん(花  
壇)

八月三十日 庚辰 金曜 晴。月清くとも清し、ねられぬ程にすみわたりたり。  
(コノ日、記事ナシ)

八月三十一日 辛巳 土曜 月清し。  
(コノ日、記事ナシ)

八月會計  
払方摘要 八月分、金廿六円九十九銭。

(九月)

九月一日 壬午 日曜

余、小池清連て、八時の汽車にて横浜三ノ谷に行。御夫婦も大に悦ひにて、久々の対面也。  
この荘の建築、庭の模様もよく斉ひて、すへてすきを尽して、先々外にはなき家造り也。  
心地よく一宿す。夕景より雨降出したり。

受方摘要 宮崎糸、十円。

\*すき(数寄)

九月二日 癸未 月曜 雨。

余、青木幾重、小池妻と共に、午下五時十分急行列車にて帰る。第一番帰塾者、築井米子、  
大塚久。

築井氏、白羽二重一反。

九月三日 甲申 火曜 天候、前に同し。八十二度。

(コノ日、記事ナシ)

九月四日 乙酉 水曜 雨。天候、前に同し。八十三度。

(コノ日、記事ナシ)

九月五日 丙戌 木曜 雨、晴雨定まらず。八十三度。  
朝より塾生続々帰り来る。五十人余也。来客、渡辺玉、福井豊。  
受方摘要 田中静、三円。田中光、三円。福井俊、二円。

九月六日 丁亥 金曜 雨、雨晴定まらずむしあつく。八十三度。  
授業始めをなす。新入生、(コノ文、以下記述ナシ)。入塾生、吉見政子、岡朝。来客、来  
栖妻、荻のとせ子、その娘。裁縫教員やとひ入る。  
飯島もと、浴衣地。

\*荻のとせ子(荻野とせ子) \*やとひ(雇い)

九月七日 戊子 土曜 晴雨定まらず。八十三度。  
朝より母の祭祀を行ふ。来客、市島氏。弘児、石神井高橋より帰る。入塾、小山仲、田中  
米。その姉田中正子、男小児を連れて来る。鯉魚蘆雁の屏風箱入、小包にて寺田氏出す。  
市島氏より白絹一疋。  
受方摘要 小山仲、田中米、三円。吉田三人、三円。

九月八日 己丑 日曜 此日こそ日本晴にて天候も定りたるなりと思ふに、午下三時頃ま  
た雨さつとふる。八十六度。

朝十一時を期して、染井家二行。新築洋館にて御夫婦二対顔いたし、種々御物語りも有て、  
午餐を饗せられる。夏子様には是迄通り書画の御教授御頼み遊され度にて、御請する。一  
時過、帰宅す。四時頃より観世素謡会二行。小督一番聞て畢、余に藤戸を聞て帰る。書を  
よす、寺田善左衛門え。

酒井氏より松影そめ。

受方摘要 小泉竹、二円。酒井夏、五円。

九月九日 庚寅 月曜 晴。八十六度。

課業例の如し。来客、岩井氏、和田氏、渡辺氏、川辺氏。地理教員須川氏、此日より教授  
始る。弘児、石山家二帰る。

九月十日 辛卯 火曜 晴。八十三度。

朝五時、余、正子と氷川神社に参詣する。氷川神社の祭礼提灯祭り也。課業例の如し。来  
客、万里直房、智子。

弘方摘要 氷川神社え一円。

九月十一日 壬辰 水曜 朝より一体の曇りにて、昼前より糸の如き雨ふり出して、直に  
晴。風少しもなし。熱八十三度。

二百廿日。課業例の如し。入塾、多胡欽子。

九月十二日 癸巳 木曜 晴。八十三度。

課業例の如し。入塾、柴原縫子。書をよす、福岡梅野倉子、**み**の後藤陽。

**柴原氏**の、花色絹一疋。

\***み**の(美濃) \*柴原氏の(柴原氏より)

九月十三日 甲午 金曜 晴。八十度、夕かた始めて涼気を生ず。

課業例の如し。来客、**美**の部姑子、岡朝子保証人**美**の田長政。

八朔。本年三大節日も皆静なる好天気にて、豊穰作なるへし。歓喜極りなし。

\***美**の部姑子(美濃部姑子)

九月十四日 乙未 土曜 晴。八十度。

課業例の如し。小松宮様、明十五日可参様使来る。桃子、大磯安田氏を訪ふ、一宿。

九月十五日 丙申 日曜 晴。八十二度、夜迄もむしあつく。

早起。墓参して帰。父の祭典執行す。畢而揮毫にかゝる。午下三時半より小松宮邸に詣す。両殿下御待かねの御様子にて、北白川宮富君様、有馬秋宮様、高崎正風氏と余にて、始、徳水にて御薄茶戴、暫時にして御庭より御坐敷にて御饗応。御余興、女杵屋千代喜の一行、五番の長哥あり。種々御物語り共おもしろく、九時過去る。この殿前侍女等の部屋をすへて御改築、尤御広く宮様の御座所となりたり。

受方摘要 小倉房、十円。

九月十六日 丁酉 月曜 晴。朝六十二度位にて、日中八十一度。

朝より揮毫する。訃音、小笠原後室純子殿本日午後三時四十分逝去。只今電話にて御知らせあり。

九月十七日 戊戌 火曜 晴。八十一度。

朝六時半より小笠原邸ニ至り、御悔申て御暇乞をもちして帰る。実に跡々の御子様かたのいたましさ**いはん方なく**、残念の至りなり。課業例の如し。小笠原純子霊前え御菓子、金千**疋備える**。

\***いはん方なく**(言はん方なく) \*備える(供える)

九月十八日 己亥 水曜 晴。八十二度。

朝散歩して帰る。課業例の如し。午下三時頃より葵町なる小松宮邸に詣し、御息所様に拝謁、暫時御話し共申上て去る。又閑院様宮邸に詣し、御息所様に拝謁して、日暮去る。

九月十九日 庚子 木曜 晴、夜雨ふる。八十度。  
朝七時前より戸田氏、岩倉氏に教授始をなして帰る。課業例の如し。

九月二十日 辛丑 金曜 晴、昼前より雨ふり出す、已而晴。八十一度。  
課業例の如し。

九月二十一日 壬寅 土曜 雨、昨夜より豪雨降つゝく。今ひる前より晴天如拭。  
課業例の如し。

九月二十二日 癸卯 日曜 晴。夜月清光にて、伝通院わたりえ月見二行て帰る。八十度。  
朝、拳家墓参して帰、祖先祭典執行す。午下、生徒一同え赤飯、御にしめを出す。来客、  
横浜小野氏妻、悴、橋本太吉、宗治郎、重たけ、いく子、大坂木津槌間鷗齋。入塾、市川  
俊子。

\*御にしめ(御煮染) \*重たけ(重威)

九月二十三日 甲辰 月曜 晴。七十九度。  
日々新聞社より依頼なる絹本尺八巾豎物鯉魚川柳、同横物我家亀竜。

九月二十四日 乙巳 火曜 晴、夜月清し。八十一度。  
秋季皇霊祭。余、愛治郎と観世会二行、能楽を見る。四時過帰。入塾、若旅信子、関屋勝  
子。

弘方摘要 能散敷代、六円八十銭。

\*能散(栈敷)

九月二十五日 丙午 水曜 夜月清し。八十度。  
課業例の如し。塾生病人出来、余の居間二置く。

九月二十六日 丁未 木曜 陰雨不定。  
朝雨、已而晴。朝六時より岩倉氏、戸田氏ニ教授して帰。課業例の如し。下婢里病氣二付、  
郷里え帰す。入塾、穴沢徳子。書至、堀田伴子。

九月二十七日 戊申 金曜 陰。  
課業例の如し。仲秋望月、陰にて無月。

九月二十八日 己酉 土曜 陰。

課業例の如し。午下早々、余、桃子と同道にて、約の如く堀田家二行、一宿す。此夜、珍らしき御高談あり。

九月二十九日 庚戌 日曜 陰。  
心眼の御珍談。又一宿。

九月三十日 辛亥 月曜 晴、月すみわたる。

日の出より実に快晴。日相観の御はなし有て面白し。夕飯済て帰る。余、桃子休業。  
払方摘要 雑費金、八円廿一銭。

\*日相観(日想観)

(九月会計、記載ナシ)

(十月)

十月一日 壬子 火曜 晴。  
課業例の如し。

十月二日 癸丑 水曜 晴。  
入塾、武井作子。午下、北白川宮、田中健三郎氏に行テ、日暮帰。

十月三日 甲寅 木曜 晴。  
朝七時より岩倉氏、戸田氏に教授して帰。

十月四日 乙卯 金曜 朝より雨さつと降て晴。  
大和田、稽古始をなす。

十月五日 丙辰 土曜 朝よりいと静かなる雨降而、晴。八十三度。  
受方摘要 金丸安、五円。

十月六日 丁巳 日曜 雨。  
朝九時より観世会二行、終日見物して帰。入塾、福井茂。

十月七日 戊午 月曜 雨、静なる雨。  
橋岡氏来る。書至、森本氏。

十月八日 己未 火曜 雨、終日一切りつゝ降る。  
書を寄す、森本勝太郎え。

\*一切り(ひとしきり)

十月九日 庚申 水曜 八十度。

朝より雨しきり也。昼頃より雨もやみて、頗快晴なり。

十月十日 辛酉 木曜 晴。八十度。

課業畢る。午下、今川小路玉枝より招待に応じて行。勝蔵氏十七回忌祭祀執行、玉串を上ル。素謡を催され、

竜田 玉枝 三井寺 島崎 俊寛 愛

百万 すま子 弱法師 花

畢而夕飯を餐して帰。玉串料、千疋。

\*餐して(饗して)

十月十一日 壬戌 金曜 晴。

課業畢る。午下早々宮城姉小路良子さまの御局え参る。久々にて種々御咄し共にて、撫子さまにも御目にかゝる。御合の物いたゞきて、四時頃帰る。

受方摘要 吉田鈺子、三円。

十月十二日 癸亥 土曜 雨。

課業畢る。午下浅草婦人会二行て帰る。

弘方摘要 婦人法話会費七、八、九、十、四ヶ月分、壱円廿錢。

十月十三日 甲子 日曜 雨、午下晴わたる。八十三度。

朝九時より、余、桃子と同しく、芝能楽堂二能を觀て、日暮帰宅す。始而袷を着て、暑さに絶かねて跡の一番を残して帰る。

弘方摘要 能敷代、三円五十錢。

\*絶かねて(堪かねて) \*跡(後) \*能敷(棧敷)

十月十四日 乙丑 月曜 雨。八十度。

受方摘要 酒井夏子、五円。

十月十五日 丙寅 火曜 朝より雨にて、午下晴。

課業畢る。午下早々北白川宮様え参り、御錢別もの献上する。夫より閑院宮様え参りて、

御教授申上て帰る。

十月十六日 丁卯 水曜 晴、この夜雨甚し。

愛国婦人会、午下一時階行社ニ参会す。大職官鎌足公祭典ニ付、姉小路へ行、参拝す。夕飯を喫して帰。来客、安田暉子、石山須磨子一宿。

弘方摘要 愛国婦人会え二円。

\*階行社(偕行社) \*大職官(大織冠)

十月十七日 戊辰 木曜 雨、終日降通したり。

神嘗祭休業ニ付、余、泰と同じく霧積山の紅葉見る筈にて準備もいたせしか、朝よりも雨にてやめにする。来客、横浜より井上市兵衛。

十月十八日 己巳 金曜 雨、雨少しもをやみな降通したり。五十三度。

課業例の如し。

\*をやみ(小止み)

十月十九日 庚午 土曜 朝小雨にて、先々晴らしく。

来客、岩浪稻子、明日台湾え出立ニ付、御暇乞に来る。

十月二十日 辛未 日曜 晴、月清し。

天晴朗。北白川宮妃富子殿下、台湾神社故宮殿下御神殿落成大祭典ニ付、新橋九時廿分御発、御見立ニ参る。同汽車にて御供致し、横浜御用邸ニ御着、それより小蒸汽船にてあさま軍艦ニ御乗込、余もあさまえ乗込、十二時御出帆。誥別して、又御用邸迄帰り、昼飯をいたゝきて、原氏え見舞ニ寄。病人も快方にて安心。三時の汽にて帰る。

\*あさま(浅間) \*あさま(浅間) \*汽(汽車)

十月二十一日 壬申 月曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十月二十二日 癸酉 火曜 晴。

課業例の如し。来客、槌間氏。

受方摘要 繁本良之介、三円。封筒千枚、二円五十銭。

十月二十三日 甲戌 水曜 晴、夜月殊に清し。

課業如例。

十月二十四日 乙亥 木曜 陰。

午下、戸田氏、岩倉氏に教授して、北白川宮様え参る。吉野等と暫時咄して帰る。御息所  
之一行、今朝十時御着台のよし承り候。

(十月二十五日、二十六日、記載ナシ)

十月二十七日 戊寅 日曜 晴。

朝八時四十分汽車にて帰る。上野二時過着、三時帰宅す。

十月二十八日 己卯 月曜 雨、朝より雨にて昼頃より雨止。月も又清し。

習字試験執行す。午下早々より校友会特別員集会す。島田信子、小早川式子、松平鞆子、  
斎藤仁、石坂松野、茂木栄子、三条篤子、江副米、美濃部姑子、安田暉子、五島善子、志  
賀鉄千代、千家信子、桃子、菊江、室母八人相会す。種々評議す。会の盛大をはかる。各  
請持して会員募集する。庭中二而一同撮影する。御弁当を饗す。一同退参、夜二入る。久々  
の会合にて皆々歡を尽して帰りぬ。

受方摘要 三条家、五円。

十月二十九日 庚辰 火曜 雨。

夜、橋岡来る。

払方摘要 橋岡氏え三円。

十月三十日 辛巳 水曜 雨。

かなの試験執行す。

\*かな(仮名)

十月三十一日 壬午 木曜 晴。

午下、戸田氏、岩倉氏に教授して帰。菘翁山水一幅箱入、金十五円にて買得す。北村静紹  
介。

受方摘要 酒井家、五円。

払方摘要 菘翁軸、十五円。

(十月會計、記載なし)

(十一月)

十一月一日 癸未 金曜 雨、朝より雨にて二時頃より雨止む。  
課業畢る。午下二時頃より余、愛治郎、泰、栄、鶴と共に、五軒町先祖祭りに参拝す。夜  
に入て帰。

十一月二日 甲申 土曜 晴。

臨時休業。午下四時頃より原町酒井家より予而御招待の教育幻灯会二行。室母其外十二人  
同道す。幻灯種々趣味ありて、活動写真もあり。九時過帰る。

十一月三日 乙酉 日曜 晴朗。

天長節。朝、陛下を拝し奉りて、九時過より觀世会に觀能す。五時帰。来客、片平常治と  
その母。

十一月四日 丙戌 月曜 晴。

課業畢る。午下、閑院宮様え参り御教授申上て帰る。不在中来客、吉田琴の母。訃音、大  
橋佐兵衛昨三日死去。朝白馬会に行、縦覽す。泰の出品三点ハ仏国コラン氏の隣ニかゝる。  
諸新聞之評もよく、始めての出品なから、先々好き方也。美術院会ニ入て画を見て帰。昼  
前也。

十一月五日 丁亥 火曜 雨。

来客、坂東大宣稲田君子の御手本願来る、吉田庸子、女子美術学校洋画教授磯野吉雄、橋岡氏。

十一月六日 戊子 水曜 朝より大雨にて十一時頃より雨全晴、夕六時頃細雨。

陛下、仙台大演習二付、行幸。大橋佐兵衛葬送す、愛治郎行。来客、江副熊。

十一月七日 己丑 木曜 雨、朝雨。

夢の記。昨夜の夢に、一人の老人有り、余より前にゆきしに、その人みけんより光明は  
なちて、これみだ仏とて拝みいたり、するとまた高き段に一人の白髪の老人坐して、是な  
む生身のみた仏とてらい拝いたせしに、その光明かくやくとして、**歎喜にすせひたり。**

朝、起ておもへハ、けふハ母の忌日なり、父母にまみえたる事と嬉しさいはん方なし。午  
下、戸田氏、岩倉氏に教授して、大橋氏に行、弔詞を告て帰。

\*よりて(寄りて) \*みけん(眉間) \*らい拝(礼拝) \*かくやく(赫奕) \*歎  
喜に(す(ママ))せひたり \*いはん方なし(言はん方なし)

十一月八日 庚寅 金曜 晴。

来客、田口米舫、美術学校教授島田友春此度設立なる女子美術協会之会頭を頼みに来る、伊沢修  
二氏細君。酒井夏子君より校友会え寄附金廿五円。夜、地震。

払方摘要 大和田氏、二円五十銭。

十一月九日 辛卯 土曜 晴。

終日、松菊之凶揮毫する。午下四時過より五軒町二行、夜に入て帰。

十一月十日 壬辰 日曜 晴。

終日、絹本二葉落製する。大学植物園二行。紅葉よろし。

十一月十一日 癸巳 月曜 晴陰不定、四時頃より雨。

午下、新宿植物御苑石山氏二行、すま子と同道にて。御鷹場之辺之紅葉、実に眼もまはゆき程に染出、御苑逍遥して帰。四時頃帰宅。夜、橋岡来る。山階宮妃範子殿下御危篤承はる。

十一月十二日 甲午 火曜 晴。

午下山階宮様え参り、御弔詞申上ル。来客、五島善子。天皇陛下、仙台より御還行なる。

\*御還行（御還幸）

十一月十三日 乙未 水曜 陰。

課業半日にして、午下塾通学生共、大学植物苑に學術研究会に拉して、紅葉も盛りにて一同大悦、茶菓のみにして、歎を尽して四時帰。会するもの百九十人。来客、松前藤子。

十一月十四日 丙申 木曜 晴。

午下、戸田氏、岩倉氏に教授して帰。靖子田舎より帰り来る。

十一月十五日 丁酉 金曜 晴。

北白川宮妃富子殿下、台湾より還御二付、御迎ニ新橋迄出ル。十二時三十分御着。頗御機嫌能、御供の人々にも皆怠なくて嬉しうこそ。左右田金作及静子、退校の御礼ニ来る。不在にて不逢。来客、石川君子。靖子帯の祝二付、氷川神社ニ参詣して、五軒町及石山家ニ行て帰。五軒町幾子、七ツの祝ニて来る。

左右田氏より、薄花絹一反。

受方摘要 左右田氏、五円。

\*怠なく（恙なく）

十一月十六日 戊戌 土曜 晴。

来客、佐藤正妻猶子廿余年目にて来る、白須賀跡見暉一其妻と共に、十四年目にて来る、熊田氏版木師、摺師を供ひ来る。訃音、松山正妻桂子今十四日午後八時死去之報アリ。

跡見暉一より白紋羽二重一反。

\*供ひ(伴ひ)

十一月十七日 己亥 日曜 晴。

朝、余、桃子と同しく、三井陳列場に行、栄子の帯を求めて、帰路五軒町に行。山階宮妃範子殿下御葬送拝観する。天晴朗、暖気暑きくらゐにて人出も夥敷、実に立派なから、御いたましさやる方なくそゝる涙にくれたり。此時、愛治郎、正子、栄子、基遂も同行にて五軒町に寄、河辺男の妻岸江にも始めて逢見る。来客、久松操治、中村幸子。

(十一月十八日〜二十日、記載ナシ)

十一月二十一日 癸卯 木曜 晴。

東京市養育院秋季大会ニ付、絹本豎物紫苑水墨画一枚、扇子三本揮毫す。

十一月二十二日 甲辰 金曜 晴。

午下、閑院宮様え御教授申上て、帰、北白川宮様え参り、妃殿下に拝謁して、台湾の御咄し親しく承はる。御三度戴て帰。

十一月二十三日 乙巳 土曜 晴。

観世清高追善能二会す。夜ニ入て帰る。汲泉雜証出来二付、配附す。

弘方摘要 観世え備物、二円五十銭。片山氏、二円。箋敷代一間、三円。

\*観世清高(観世清孝) \*汲泉雜証(汲泉雜誌) \*備物(供物) \*箋敷(棧敷)

十一月二十四日 丙午 日曜 晴、月如水。

午下、日本婦人教育会秋季総会ニ会す。高輪毛利家の庭園ニテ遊ぶ。当日之会費三十銭。

一蝶斎手しな、園遊落語一番のみ。畢而、特別会員のみ御坐敷にて立食の饗応あり。総裁閑院宮妃殿下も御出席在らせられたり。余は跡に残りくれ候様、美佐子さまより仰せにて、御三度いたゞき、久々にて御咄し申上て、六時出門、七時半帰る。来客、江副米、静。

弘方摘要 教育会会費、三十銭。厚徳会え、三十銭。

\*手しな(手品) \*園遊(円遊) \*跡に残り(後に残り)

十一月二十五日 丁未 月曜 晴、月如鏡さえわたる。十五夜。

朝霜雪の如く。近方散歩して帰。

弘方摘要 橋岡え月謝、三円。

\*近方(近傍)

十一月二十六日 戊申 火曜 晴、月光如鏡。

来客、原貞子、川村福子、久々にて来り、古るき咄し共して嬉しく、夜に入て帰りぬ。  
ふらねる。

\*ふらねる(フラネル)

十一月二十七日 己酉 水曜 晴。

午下、浅草御坊え報恩講ニ参る。四時過帰る。

払方摘要 浅草御坊え一円。卯都宮え五円。

\*卯都宮(宇都宮)

十一月二十八日 庚戌 木曜 晴、午下二時頃天俄然雹雪雨降、十分間程ニテ晴。夜月清光。

午下戸田氏、岩倉氏に教授して帰。岩橋浪江、増田義一と来二日結婚ニ付、松魚一折、白縮緬一反を祝ふ。

十一月二十九日 辛亥 金曜 晴。三十九度。

朝霜雪の如し。庭いてとほる。霜柱たつ。草花もの一時にたをれふす。紅葉に霜置たる、珍らし。

\*いて(凍て) \*たをれ(倒れ)

十一月三十日 壬子 土曜 晴。

午下、余、桃子、栄、鶴と共に、上野女子美術協会に行、陳列物を見る。かく別見るへきものなし。桜か岡のわたり散歩して、はのらまを見て帰る。

\*はのらま(パノラマ)

(十一月会計、記載ナシ)

(十二月)

十二月一日 癸丑 日曜 晴。

本日ハ姉千世子の十年祭ニ付、祭典を行ふ。それより墓参して帰る。横浜より井上氏参詣せらる。重たけ、いく子も来る。夕餐を饗す。夜に入て謡三番をうたふ。種々旧を話して、十時頃畢。来客、大崎せい子母、御札に来る。井上氏一宿。

受方摘要 酒井氏、五円。

\*重たけ(重威)

十二月二日 甲寅 月曜 雨。 約有、午下五時より芝紅葉館二行。  
早朝より雨降出す。午下、井上氏去る。午下四時半より、余、愛治郎同道にて紅葉館二行。  
此時、雨全晴。座已ニ定而加藤弘行之一統、岩橋氏ノ一統、新夫婦ニ初対面す。増田義一  
氏も有為の人物也。加藤弘行之一夫一妻之演舌アリ。祝宴を開かれ、本膳済て九時帰。新  
婚旅行、新橋十時の汽車にて大磯行といふ。

十二月三日 乙卯 火曜 晴。  
宇都宮平一氏之言行録ニ一文章を寄す。

十二月四日 丙辰 水曜 晴。  
来客、川崎松子。

十二月五日 丁巳 木曜 晴。  
午下、戸田氏、岩倉氏に教授して帰。

十二月六日 戊午 金曜 晴。  
(コノ日、記事ナシ)

十二月七日 己未 土曜 晴。  
(コノ日、記事ナシ)

十二月八日 庚申 日曜 晴。  
(コノ日、記事ナシ)

十二月九日 辛酉 月曜 晴。  
勅題新年梅、★(月十懐のつくり) 懐紙堅詠草の稽古にかゝる。

十二月十日 壬戌 火曜 晴。  
(コノ日、記事ナシ)

十二月十一日 癸亥 水曜 晴。  
午下、愛国婦人会評議員会、偕行社ニ会す。夫より九条様え参り、恵子様御めもし致し、  
一位様も追々御快方之趣承る。来客、江副熊子、米子、此度日下部氏と縁談齊ひたる二付、  
御礼御暇乞に来る。

払方摘要 愛国婦人会、厚德会より寄附三十四年分、十円。跡見治子、一円。井深鐘、一

円。

十二月十二日 甲子 木曜 晴。

午下、戸田氏、岩倉氏に教授して閑院宮様え参り、此度千葉県御出張二付、御息所様にも御同様、千葉に御滞在の御筈にて、十七日御出発のよし承る。帰途、蒲生氏を問て帰。来客、安部信子。江副米子え松魚大箱、友仙縮緬一反を祝ふ。福井豊子、不在にて不逢。田村盛子より紋織御召一反。

受方摘要 山田梅、四円。

\*友仙縮緬(友禅縮緬)

十二月十三日 乙丑 金曜 晴。

午下四時より江副氏の招きに応じて芝紅葉館二行。余、桃子、栄子、末子、菊江、五人連也。御勅題の哥、皆々書上ル。

受方摘要 小笠原暉子、二円五十銭。

十二月十四日 丙寅 土曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十二月十五日 丁卯 日曜 晴。

来客、安田暉子、金丸安子母。

受方摘要 安田暉子、五円。渡辺康、五円。長谷川幸、五円。田中光、五円。横川逸、五円。

十二月十六日 戊辰 月曜 晴。

画の試筆稽古にかゝる。橋岡氏来。

受方摘要 軍事公債利子、七円。

十二月十七日 己巳 火曜 晴、午下二時頃より俄然風吹すさぶ。

日下部三九郎、同米子、加賀丸にて渡米する。愛治郎、横浜迄見立ル。朝十時、閑院宮、同妃殿下、千葉九々田え御移転二付、本所停車場迄御見立申上ル。午下、酒井氏夏子様御稽古に参り、四時帰。大和田氏来。

受方摘要 酒井氏、一円廿五銭。

\*九々田(久々田)

十二月十八日 庚午 水曜 陰。

画の試筆稽古。午下四時より華族会館ニ於テ愛国婦人会寄合ニ出席す。各区長を招きて会

員募集頼む。後、洋餐済て八時頃帰宅す。

受方摘要 渡辺澄、五円。

払方摘要 愛国婦人会会費、一円五十銭。

十二月十九日 辛未 木曜 雪。朝より雪降り出し、はつ雪にしてはよほど大雪ながら、

木々の葉に積たれと、しはしにて雨と成る。

来客、江副廉蔵、角田栄子、岩浪稻子。

北白川宮富君様より白緞子丸帯地。

受方摘要 北白川宮より二円五十銭。

十二月二十日 壬申 金曜 晴。

さく夜一睡後、俄に大雨あられらしくその音すさましく、それに雷鳴をそへ、地震も火事もあり。さてくおそろしき夜也。今朝ハ一変して快晴。試筆画出来上ル。

払方摘要 三井呉服物、十八円。

\*あられ(霰)

十二月二十一日 癸酉 土曜 晴。

毛利家、糸織一反。

受方摘要 毛利家、三円。西村喜三郎、二円。

十二月二十二日 甲戌 日曜 晴。

朝墓参して、観世会にて観能する。六時後、帰宅。

原氏より、紋織御召二反。岩倉氏より、一楽織一反。

受方摘要 岩倉八千、十五円。車代、三円。むし物料、二円。

払方摘要 観世場代、二円。

\*むし物(蒸物)

十二月二十三日 乙亥 月曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十二月二十四日 丙子 火曜 晴。

来客、志賀鉄千代、広田武子。授業納めをなす。夜、塾生一同忘年会をなす。第六教室に紅灯をかゝけ、食堂とす。みかん、おてん、御団子、おむすひとす。先五時半より校長の挨拶ありて、実にその賑々しさ当年を以て始めとす。八時過畢。

受方摘要 戸田氏、十二円。

\*おむすひ(お結び)

十二月二十五日 丁丑 水曜 雨晴不定。夜中より大雨降すさみて、五時頃より風となる。暴風なり。

朝より塾生帰省する。実二**困雑**甚たし。

受方摘要 閑院宮、三十円。今城友、二円五十銭。松平妙、三円。来栖貞、五円。生源寺いさを、三円。樹下定江、三円。

払方摘要 **謡曲かるた**、二円五十銭。

\***困雑**(混雑) \*謡曲かるた(謡曲カルタ)

十二月二十六日 戊寅 木曜 晴。

受方摘要 平田三枝、三円。吉田鈺子、三円。大東豊子、三円。斎藤常、十三円。

十二月二十七日 己卯 金曜 晴。

掃除執行す。余は朝より外出す。五軒町を始として、山階宮、石山氏、閑院宮、三条家、小松宮、岩倉氏、歳末之御**祝義**申上て、三時過帰。来客、万里通房伯、柴田朝。

受方摘要 北村紹介菘翁返却、十五円。三条家、十円。松平鱗、栄、五円。園祥子、三円。九条家、二円五十銭。

\*祝義(祝儀)

十二月二十八日 庚辰 土曜 晴。

余の居間掃除す。退校、金丸安子。

**大しぼ縮緬**一反。

受方摘要 金丸安子、五円。

払方摘要 **わし田**え仕立物代、三円。中井敬所、印刻代七顆分、十二円。

\***大しぼ縮緬**(大皺縮緬) \***わし田**(鷺田)

十二月二十九日 辛巳 日曜

余、桃子と同じく上野商品陳列場に行、買ものする。仲町辺にても買物して帰。

払方摘要 買物代、十二円。

十二月三十日 壬午 月曜 晴。

午下一時より、豊島岡御陵へ参る。山階宮妃範子殿下、御五十日祭ニ参拝す。三時過帰。

十二月三十一日 癸未 火曜 晴。

新年賀状**葉かき**三百五十枚を出す。先一家無障当年を送る、めてたき限り也。

\***葉かき**(葉書)

(十二月会計、記載ナシ)

(明治三十四年惣計)

一月 二日

祝義、金壹円五十銭、車夫え

\*祝義(祝儀)

三日

ふし七子、金四円廿銭、下総やわきより

六日

観世さじき代六ヶ月分、金七円廿銭

十二日

玉利久一反、金壹円三十銭、米より

十六日

大島つむき、金九十銭

十六日

同、同九十銭

廿四日

緋友仙一丈一尺、同四円四十銭、津田や

\*緋友仙(緋友禪)

廿四日

更紗縮緬一丈一尺、金三円八十銭、津田や

廿七日

瓦斯羽二重鼠色一反、金壹円、絹や

二月 二日

生絹二疋、浅黄染物、三井

五日

緋友仙一反、金七円、米より \*友仙(友禪)

三月

糸織一反、五円五十銭

二日

紬更紗染一反、壹円六十銭

二日

紋羽二重、羽織仕立直し、三井

四月 四日

甫信鮎の凶一軸、金貳円、北村より

五日

めりんす黒かすり二丈、金壹円七十銭也、絹や

\*めりんす(メリンス)

五日

詩経示蒙句解十冊、金壹円五十銭

廿六日

左氏伝講解十五冊、金二円也、北村氏より

廿六日

藤の盆栽、一円廿銭

廿六日

浅草婦人会え二、三、四、(三)ヶ月分、九十銭出す

廿六日

結髪代、三十銭

五月 一日より

二日

田村、岩倉、九条家え車代

五日

観世会え、車代

九日

岩倉氏え行、同

十五日

筆卷すたれ、五十五銭

十五日

風通織、裏共ゆのし、津田や

同

蝙蝠傘一握

\*ゆのし(湯熨斗)

同

岩倉氏行、車代

十八日

せる地蔽衣、仕立及かた入共、金拾貳円廿銭、白木や

\*せる地(セル地)

廿四日

閑院宮様行、車代

廿七日

上野美術協進会行、車代

三十日

結髪代五、六、二ヶ月分、六十銭

三十日

戸田氏、岩倉氏行、車や

三十日

もをかゆかた二反、壱円七十銭、米より

\*もをか(真岡)

六月より

平川町田中氏え車や

\*平川町(平河町)

六日

新撰歌典一冊

八日

婦人法話会大会二付、入場券十枚代、金二円

八日

右五、六、二ヶ月分、六十銭

十四日

観世え舞台開き二付、金十円を祝ふ

十四日

白縞ゆかた三反、一反八十五銭ツ、

十四日

白縞ゆかた二反、五十五銭ツ、

十七日

白立しほ紋付、染物、三井

\*白立しほ(白立皺)

九日十日

観世え、下総や

十三日

戸田氏、岩倉氏、田中氏、五軒町、下総や

十四日

閑院宮、岩倉氏、同

十六日

中六番町中村氏、同

廿日

戸田氏、岩倉氏、同

雁のゆきかひ上下二冊

廿一日

銀製眼鏡のわく一、金二円

廿一日

紋紹羽織、黒染、三井

紋御召、黒紋付染、三井、六月廿八日着

眼鏡の袋、四十五銭

同、廿銭

宝生会往返、下総や

廿三日

岩倉、戸田氏行、同

廿七日

紹の帯、六円五十五銭、三井

七月十八日

阿波ちゝみ一反、九十銭、同

\*阿波ちゝみ(阿波縮)

十八日

戸田氏、田村氏行、下総や

閑院宮様より五軒町え二人、同

きやらこ六尺、きぬや

\*きやらこ(キヤラコ)

廿一日

新橋迄、下総や

八月 五日 堅紹織一反、金沓円拾五銭、伊勢仁

七日 瓦斯羽二重裏地一反、三井

十二日 瓦斯羽二重二反、同

十四日 天竺金錦六尺六寸、絹や

廿四日 紺天三尺五寸、三井

十五日 東亜仏教会費、沓円四十銭

画刷毛、三寸、式寸五部(分)

画筆五本、式円六十六銭五(厘)、硯海堂

ふとん綿五十枚、五円

同打直し、一円三十式銭

廿四日 友仙めりんす半巾三尺五寸、絹や

\*友仙(友禪) \*めりんす(メリンス)

次え土産代、金沓円六十銭

九月 一日より

十月 日光行旅費

土産次一同え、沓円六十銭

\更紗形絹一反、三井

十一月より廿八日 \縮緬一反、更紗形染、三井

\壁織一反、更紗形染、同

十七日 \鼠縮緬頭巾、四円五十銭、同

\友仙めりんす、坐蒲団三ツ、絹や

\*友仙(友禪) \*めりんす(メリンス)

十一月 支那紋縮緬繻胖、あらひゆのし、三井

\*繻胖(襦袢) \*ゆのし(湯熨斗)

黒一楽織、小袖仕立、菊枝

白羽二重、小袖裾直し、同

黒御召縮緬、同小紋下着、小袖仕立、同

\羽二重鼠染一反、三井

黒木綿五ツ紋付一反、絹屋

瓦斯羽二重一反、同

\御召縮緬一反、十一円三十銭、三井

吉野御召沓反、拾四円三十銭、三井

ふた子沓反、同 \*ふた子(二子)

九十四銭、九十三銭、九十四銭、八十八銭

謡曲かるた、式円五十銭 \*謡曲かるた(謡曲カルタ)